

# 津堅島付近海域における流況調査報告

平成 17 年 11 月 1, 2 日の大潮の低潮（干潮）時に津堅島付近海域において、流況調査を実施した。観測方法は、DGPS プイによる漂流観測である。

## 1. 観測海域

測点図に示すとおり

## 2. 使用した船舶又は航空機の種別又は名称

測量船「おきしお」及び搭載艇

## 3. 漂流観測結果

11 月 1 日は低潮後の上げ潮時、2 日は低潮前の下げ潮時に観測を行った。結果を第 1, 2 図に示す。観測中の風は 1 日が北東寄りの風 7m/s、2 日が東北東寄りの風 4m/s であった。

1 日は、流速は平均約 0.1kn の速さで岸に沿って南方へ流れた。また、ビーチ北側は樹木等により風の影響を受けにくい海域であるため、流速は風通しの良いビーチ南側と比較して 1 / 2 程度であった。

2 日は、流速は平均約 0.2kn の速さで岸に沿って南西方へ流れた。また、流速は最大で約 0.3kn にまで達した。

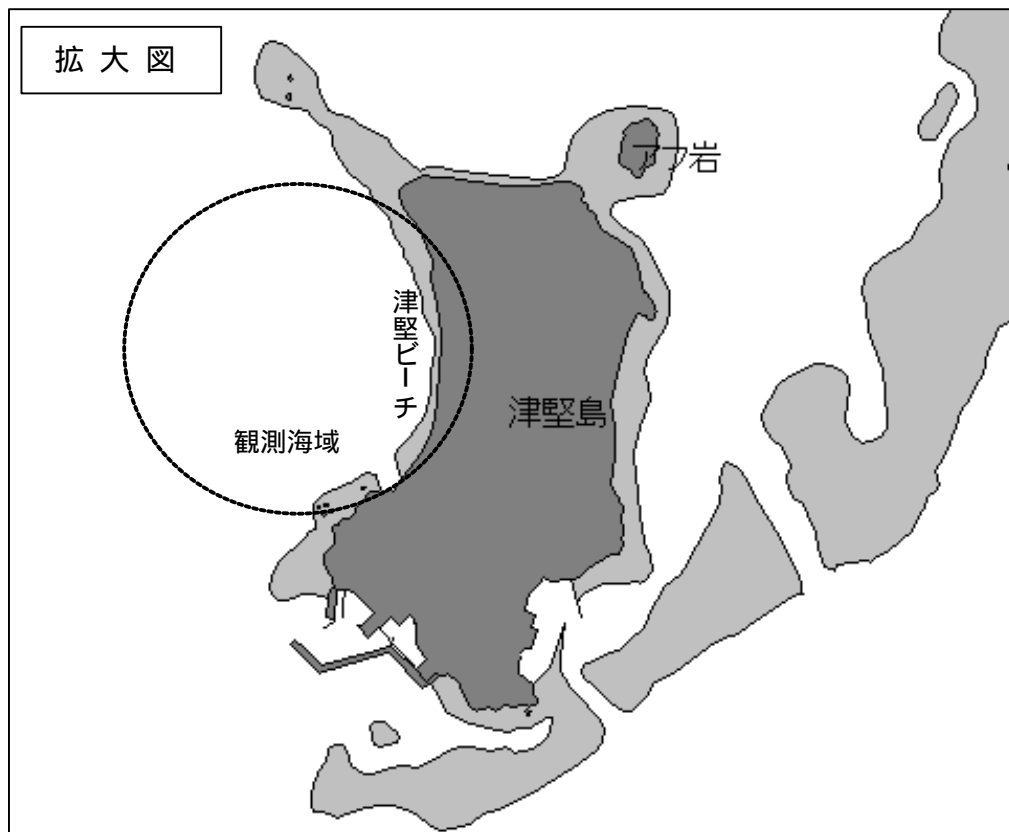
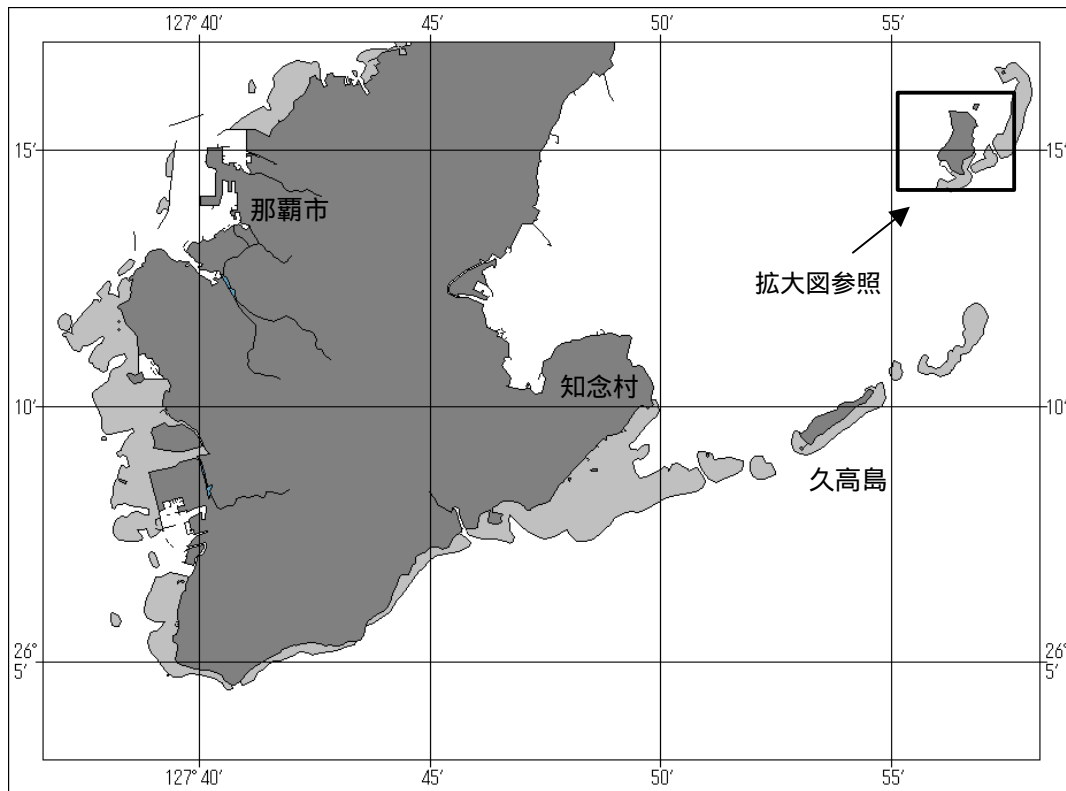
## 4. まとめ

今回の観測海域である津堅島の西側海域は、島内唯一の施設の整った海水浴場であり、夏季には海水浴、水上バイクなど本島からの観光客で賑わう場所である。また、本海域付近はいたるところに藻場が形成されており、素潜り漁も行われている。

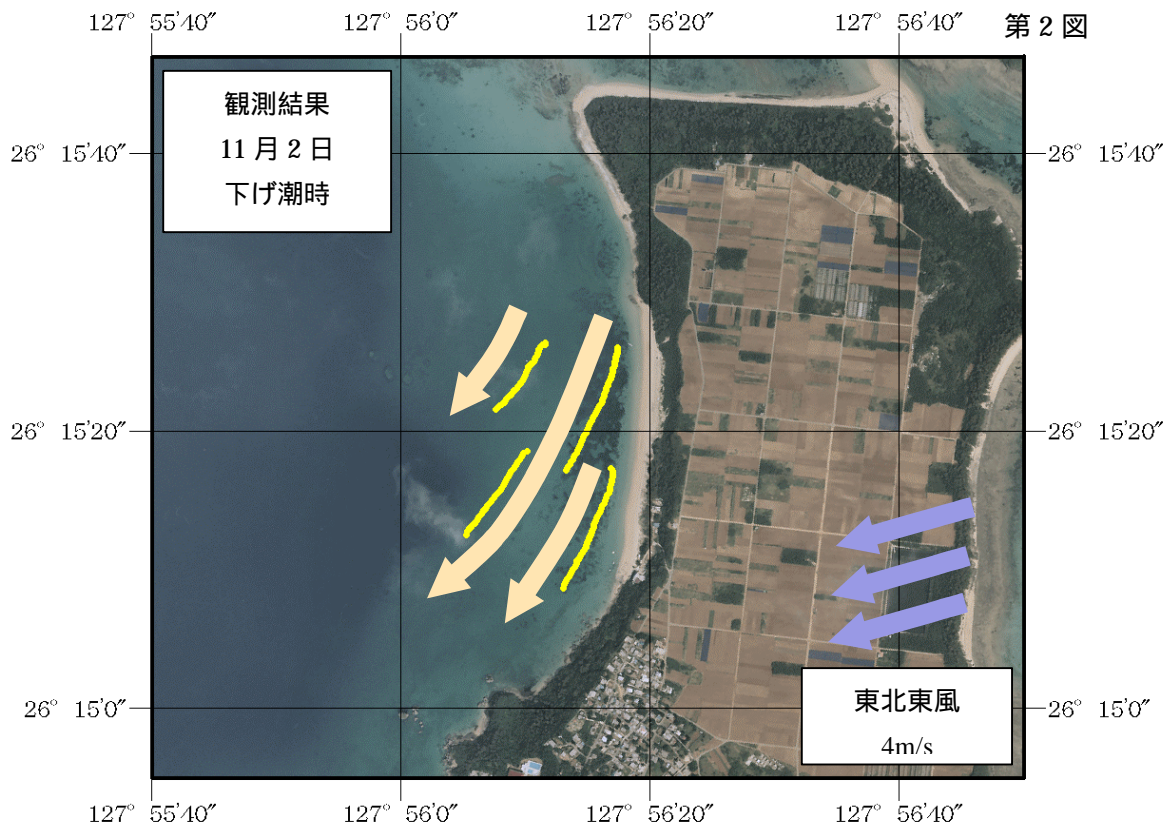
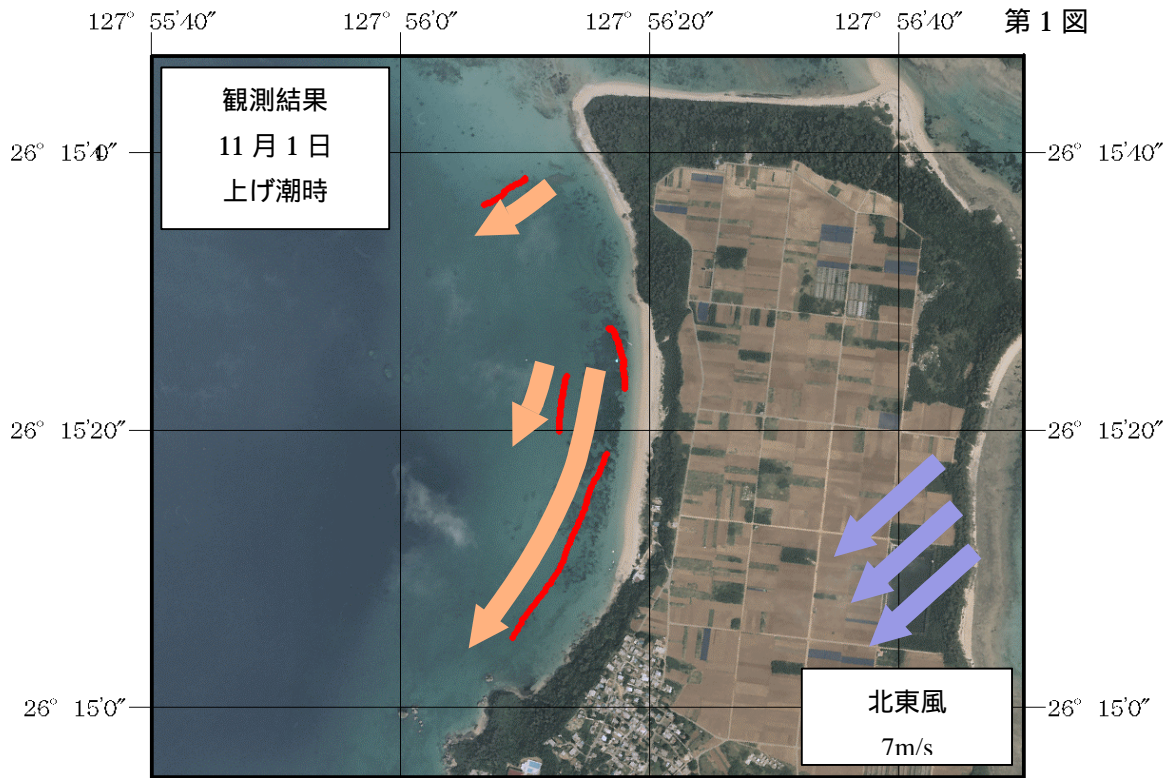
今観測では、上げ潮・下げ潮時ともにほぼ風下方向へ流れたが、流速は上げ潮時より下げ潮時の方が若干強いという結果になった。これは本海域付近の潮流が上げ潮時は北方へ下げ潮時は南方へと流れているため、上げ潮時は風に起因する流れと潮流がぶつかり合い流速が弱まったと推察される（昭和 52 年及び平成 9 年に第十一管区で観測し算出した定数による潮流推算結果参照）。

今回、津堅島の西側海域にあわせて東側海域も観測予定であったが、東寄りの風が連風しうねりが高くなっていたため調査を実施できなかった。東側海域は海水浴場としての施設は整っていないが海水浴客や漁業関係者も本海域を頻繁に利用しており、今後観測を実施する必要がある。西側海域では期間中幸いにも直接海浜事故に結びつくような強い流れは観測されなかった。しかし、このような弱い流れの海域においても風やうねりによって流況がおおきく変化することがあるので、マリレジャーの際には十分注意する必要がある。

# 測点図



# 漂流観測結果



# 潮流推算結果

